

藤沢市教育委員会 7月臨時会会議録

日 時 2019年（令和元年）7月31日（水）
午後2時00分
場 所 市民会館第2展示集会ホール

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の決定
- 3 議 事
 - (1) 議案第19号 令和2年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択について
 - (2) 議案第20号 令和2年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について
 - (3) 議案第21号 令和2年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について
- 4 閉 会

出席委員

1 番 平 岩 多恵子
2 番 中 林 奈美子
3 番 大 津 邦 彦
4 番 飯 島 広 美
5 番 木 原 明 子

出席事務局職員

教育部長	松 原 保	教育次長	須 田 泉
教育部参事	佐 藤 繁	教育指導課長	窪 島 義 浩
教育指導課主幹	坪 谷 麻 貴	教育指導課指導主事	納 富 崇 典
教育指導課指導主事	角 田 祐 生	教育指導課指導主事	藤 本 伸 一
教育指導課指導主事	森 谷 真佐美	教育指導課指導主事	寺 西 美 和
教育指導課指導主事	近 藤 千 鶴	教育指導課指導主事	丸 谷 英 之
教育指導課指導主事	浅 場 純 子	教育指導課指導主事	坂 口 由 紀
教育指導課指導主事	澤 野 美奈子	教育指導課指導主事	宮 本 一 也
教育指導課指導主事	西 田 将 之	教育指導課指導主事	溝 尾 昌 也
教育指導課指導主事	植 松 梢	教育指導課指導主事	金 枝 直 子
書 記	鈴 木 憲二郎		

平岩教育長

ただいまから藤沢市教育委員会 7 月臨時会を開会いたします。

会議の開催に当たり、藤沢市教育委員会傍聴規則第 6 条第 4 項にあります写真撮影について、報道機関から事前に申請がありましたので、これを許可することといたします。

傍聴人におかれましては、傍聴券の裏面に記載してあります遵守事項、(1)飲食し、又は喫煙しないこと。(2)議事に対し、批評を加え、又は可否を表明しないこと。(3)みだりに傍聴席を離れないこと。(4)写真、ビデオ等を撮影し、又は録音しないこと。(5)会議場の秩序を乱し、又は会議の妨害となる行為をしないこと。以上、5 点を守っていただき、円滑な議事進行のため、ご静粛にしてくださいませよう、よろしく願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

平岩教育長

それでは、会議録署名委員を決定いたします。本日の会議録に署名する委員は、2 番・中林委員、5 番・木原委員にお願いしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

平岩教育長

それでは、本日の会議録に署名する委員は、2 番・中林委員、5 番・木原委員にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

平岩教育長

これより議事に入ります。

議案第 19 号「令和 2 年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択について」を上程いたします。事務局の説明を求めます。

窪島教育指導課長

それでは、議案第 19 号「令和 2 年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択について」を説明いたします。

令和 2 年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択についてでございますが、本年度は、令和 2 年度から小学校において使用される教科用図書について、教科書目録の中から協議の上、1 種目につき 1 発行業者のものを採択することとなります。また、法令によりまして、小学校用教科用図書は、基本的に採択替えを行った時点から 4 年間は同じ発行業者のものを採択することになっております。この後、令和 2 年度使用小学校用教科用図書についてご協議いただきますが、採択に当たり、見本本の他に、調査研究の参考としてお使いいただきました資料を確認させていただきます。

まず、文部科学省の「小学校学習指導要領」、教科書発行業者が編修の趣意をまとめた「教科書編修趣意書」、神奈川県教育委員会において調査研究した結果をまとめた「小学校、義務教育諸学校の前期課程教科用図書調査研究の結果」です。

次に、市独自の資料といたしまして、小学校用教科用図書に係る「令和

2年度使用教科用図書調査書」及び「令和2年度使用小学校用教科用図書調査書まとめ」でございますが、「令和2年度使用教科用図書調査書」は、各小学校長が自校の教員に調査研究させたもので、各小学校長の責任のもと、県の調査研究の観点等に沿って4項目の観点ごとに調査研究したもので、その資料をまとめたものが「令和2年度使用小学校用教科用図書調査書まとめ」となっております。

次に、「令和2年度使用教科用図書意見書」及び「令和2年度使用教科用図書意見書一覧表」ですが、「令和2年度使用教科用図書意見書」は、保護者及び市民向けに、各小学校及び藤沢市役所本庁舎5階市民ラウンジにおいて、教科書展示会を開催した際にいただいた意見、感想で、それをまとめたものが「令和2年度使用教科用図書意見書一覧表」となっております。

さらに、本市教科用図書採択審議委員会において、調査員を任命し、作成いたしました「小学校用（令和2・3・4・5年度用）調査資料」、また、資料ではございませんが、教科用図書採択審議委員会からいただいた答申「令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について」もご覧いただいております。また、市民の方等からいただいた要望書についても、教育委員の皆様にはご覧いただいております。

それでは、提案理由等を説明いたします。1ページをご覧ください。提案理由の欄にありますように、この議案を提出いたしましたのは、小学校用教科用図書につきまして、令和2年度に新しい学習指導要領の全面実施を控え、令和元年度に採択替えを行う必要があるものでございます。本年5月の教育委員会定例会で決定した「令和2年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき、採択する教科用図書につきましては、採択日程に沿って展示の実施、各小学校長による調査研究、審議委員の委嘱又は任命、教育長による審議委員長への諮問、調査員の任命と調査資料の作成を経て、第2回藤沢市教科用図書採択審議委員会におきまして、小学校用教科用図書の審議を行い、種目別にまとめられた審議内容が答申されております。

3ページの別紙は、ご審議いただく「令和2年度使用小学校用教科用図書発行業者別一覧表」でございます。

それでは、議案書を読み上げます。（議案書朗読）

平岩教育長

事務局の説明が終わりました。委員の皆様には、ただいま事務局が説明いたしましたさまざまな資料に基づきまして、これまで調査研究をしていただきました。

これから協議に入りますが、協議方法について、私から提案をさせていただきます。協議方法については、私たちが調査研究する際に使用した資

料における観点を踏まえ、この場では3つの観点として「学習指導要領との関連、内容・構成」そして「分量、装丁・表記等」さらに「本市の児童の実態や地域等の特性との関連」以上3点を軸として総括的に協議をしたいと考えます。なお、教科によって発行業者数が2者から8者までとなっています。そのため、審議に当たっては3者以下の教科については、採択したいと考える1者についてご意見をいただきたいと思ひます。また、4者以上の教科については、適切と考える者についてご意見をいただきたいと思ひます。そしてそれぞれ協議を進める中で、1者を決定してまいりたいと思ひますが、いかがでしょうか。なお、英語については初めての教科化でございますので、ご意見を丁寧にごいただきたく、より慎重に審議を進めたいと思ひますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、そのように進めさせていただきます。

はじめに「国語」から協議を始めます。発行業者は4者で、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版です。ご意見をお願いいたします。

飯島委員

国語の授業では、日常生活に必要な国語の理解や使用法について学んだり、表現力、思考力、判断力を養ったりすることが大切です。

光村は優れた教材、読みごたえのある教材を多く集めていて、子どもたちの表現力、思考力、判断力を養う上で適していると思ひました。また、調査資料にあるように、子どもたちの日常生活を中心に、話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの順に段階を追って取り組める点も評価できると考えます。このことから私は光村図書出版を推薦いたします。

中林委員

国語に入る前に私の意見を先に述べさせていただきたいと思ひます。県の調査書や市の調査資料、学校調査書まとめ、審議会の意見、展示会での市民意見など、いただいた資料に目を通しております。市民の皆さんからは、学校現場の意見、先生方の意見を尊重してほしいという内容の意見が大変多くございました。私は学校現場の意見を尊重していきたいと思ひています。また、どの教科でも、どの者でも藤沢市にとってベストのものはないと思ひています。それぞれの先生方が目の前の子どもたちの特性を見て工夫をしていただけたらと思ひます。児童目線での教科書が多くなってきているように感じますが、苦手意識をできるだけ持たないような配慮とご指導をお願いできたらと思ひています。毎日、楽しく学校に通えるよう、先生方も楽しく過ごせるようにと願っています。年々、サイズが大きくなり、紙質もよく重くなってきていて、児童の負担が大きくなっていることには、保護者としてもどうしたものかと思ひるところではありますが、この点につきましては、定例会などで検討していくべき内容ですので、今回の採

扱では重さや大きさを重視することが余りできませんでしたことをお伝えしておきたいと思います。

また、二次元コードにつきましては、まだ、全家庭で活用できる状態ではないので、配慮が必要だと思いますが、時代の流れとともに、近い将来、当たり前になってくると予想されます。今後、より活用できる環境が整い、児童生徒のために、よりよい環境となるよう努めていきたいと思っています。

国語については、光村図書がよいと考えます。調査資料や審議会での意見にもありますように、単元の扉ページに、学習の目当てが具体的に示されていて、児童が学習しやすい工夫がされています。また、単元と関連した図書の紹介も多く、読書活動の充実にも工夫がされています。1年生の「かざぐるま」に始まり、6年生の「創造」と学年ごと、違うテーマにも工夫があり、よいと思います。長く題材になっているものも多く、保護者が児童と一緒に題材について共有できることは、家庭学習の話題ともなり、とてもよいと思います。

木原委員

私も光村図書がよいと思います。教科書の外観について、絵が柔らかく、優しい雰囲気があり、1年生の教科書は楽しい挿絵から入り、言葉を学ぶことが自然と楽しく、落ち着いた心の内に導かれていくようなつくりになっていると感じました。昔話がバランスよく配置され、読みやすく、6年生の「柿山伏」や「鳥獣戯画」は、日本の伝統文化に触れることができるよい題材が読みやすく取り入れられ、季節の言葉では「二十四節気」が紹介され、俳句や短歌への誘いもあり、さらに成長していく先へのつながりもあり、大変よいと思います。また、単元ごとのねらいは、学びをする際の助けとなり、わかりやすいと思います。

大津委員

国語についてですが、内容的にどの教科も甲乙つけがたいと感じたところがございます。このような中で、光村図書については、先ほどお話がありましたけれども、学習の進め方や何を学ぶかといったことが目次にもわかりやすく示されている点や、次のページでは学習の進め方が丁寧に説明されていること、また、前年に学んだことと対比できる点や、物の考え方や伝え方の手順が示されていることなど、とてもよいと感じました。

もう1者、次点として挙げさせていただきたいのは、東京書籍になります。光村図書同様に、目次の使い方にも工夫が見える点や、話す、聞く、書く、読むが、各題材別に言葉の力として何を身につけたり、学んだりするのかを明確に示していて、子どもたちだけでなく先生や保護者にもわかりやすくなっている点が大変よいと感じました。また、付録では、学習で使う言葉や前の学年で学んだことなどがまとめられていて、振り返りなど

にも役立つと考えられる点がよいと思いました。

平岩教育長

最後に、私からも意見を述べさせていただきます。まず、国語について意見を述べさせていただく前に、教科書採択全般についての考え方について発言をさせていただきます。市民の皆様のご意見を伺うために実施いたしました本庁舎や各学校での展示会におきましては、大変多くの市民の方々からさまざまなご意見をいただきまして、ありがとうございました。各教科に対するご意見も多数ありましたが、教科書を使用する現場の学校の先生の意見を尊重してほしいとのご意見も大変多くいただいたところでございます。私も、実際に教科書を使う先生方が使いやすく、そして教えやすい教科書であることが、子どもたちの学びにおいて大変大切な視点であると考えております。そして各学校ごとに調査研究を行いまして、各学校長から提出された「教科用図書調査書」につきましては、今お話したような視点から、私は内容を拝見し、尊重してまいりたいと考えております。

そして審議委員会におきましては、学校長や保護者の委員の皆様、調査員による調査研究を参考にいただきまして、それぞれの教科において、藤沢の子どもたちの実態を踏まえる中で、さまざまな観点から藤沢の子どもたちにふさわしい教科書についてご意見をいただき、答申をいただいたと考えております。この答申につきましても、採択に当たりまして、大切にまいりたいと考えております。私といたしましては、各学校長から提出された調査書のまとめや、審議委員会の答申の状況を発言させていただきまして、それぞれの教科について意見を述べたいと思っております。

まず、国語でございますが、各学校の調査書におきましても、また、審議委員会の答申におきましても、現在、使用している光村図書出版を評価する意見が大変多い状況となっております。私は学校や審議委員会の意見を踏まえまして、教科書各者を拝見したところでございますが、国語につきましては、話す、聞く、書く、読む、この基本の力を発達段階に応じて、確実に身につけていくことが大切であると考えていまして、光村図書出版については、学校からも児童が興味を持ちそうな題材や共感が持てる題材が多く、語彙を豊かにし、豊かな感性が身につけられるとのご意見を多数いただいておりますので、光村図書出版を推したいと考えております。

私も含めまして、今、各委員からさまざまなご意見をいただいたところでございますが、今までのご意見に対しまして、ご質問・ご意見のある方はいらっしゃいますか。(なし)

いらっしゃらないようですので、各委員が選ばれた状況を申し上げます

と、光村図書出版が全員、そして東京書籍が1人となっております。全員が選んでおります光村図書出版とすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「国語」につきましては、「光村図書出版」といたします。

×××

次に、書写に移ります。発行業者は5者で、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版となっております。ご意見をお願いいたします。

飯島委員

書写は、国語という授業の中で学びます。書写の授業では、文字の組み立て方や理解や形の整い方、毛筆を使った文字の書き方、目的に応じた筆記用具の選び方などについて学んでいきます。書写は、国語の中で硬筆と毛筆に分かれていまして、硬筆は、1年生から6年生まで全学年で学びます。毛筆については、3年生以上の学年で行い、毛筆については年間30時間程度という学習の縛りがございます。

書写について、私は光村図書出版を推薦したいと思います。理由は、1年生の硬筆では、初めにひらがなの学習をしますけれども、他者に比べてなぞり書きのページが長く続き、練習する字数もほどよいと感じました。次にカタカナ、漢字の練習をしていきますが、ここでも練習量がほどよく、また適切と感じました。さらに毛筆について習い始める3年生では、筆遣いがスモールステップで構成されていて、とても学習しやすいと感じました。

中林委員

私も光村図書出版がよろしいと思います。調査資料や審議委員会での意見にもございますように、光村図書出版は必要以上の情報がなく、すっきりとした構成で見やすく、「考え、確かめ、生かす」というスモールステップでわかりやすく構成されています。また、3年生の書写での筆の流れをキャラクターの動きが擬態語で表現されていて、力加減がとてもわかりやすくリズム感よく楽しく、筆の学習ができるよう工夫されています。ノートや連絡帳の書き方のポイントなど、実用的な編修が多く、国語と連動していて使いやすいとの意見にも大変共感できます。

木原委員

私も光村図書出版がよろしいと思います。本を開けると、全体的に色調が落ち着いているため、落ち着いた気持ちで字を書くということに臨むことができると感じます。字が大きく、また一つひとつのページは余裕があり、すっきりとしているため、大変見やすいと感じました。

大津委員

書写につきましても、どの者も甲乙つけがたく、それぞれ教科書を拝見させていただきましたけれども、かなり選ぶのに時間を要したといえますか、大変だったという思いがあります。その中で、日本文教出版について

ですが、目次のページの部分に、目標が具体的に記されていて、大変わかりやすいことや、国語の広場とか、生活と書写、エアメールのコーナーでは、俳句や手紙の書き方、特に外国に向けての手紙の書き方が載っていたことで、今後役に立つのではないかと思ったことが1つあります。

それから1年生などでは巻末についている「水書きシート」は、大きさがいろいろで多分私の視点としては、日本文教出版の大きさが一番使いやすいのではないかと思ったところが1つです。以上の点が日本文教出版を選んだ理由でございます。

それから次点として、光村図書出版も大変よくできていまして、特に「書写ブック」のコーナーがありまして、1年から6年まで学んだことが載っていて、その時点での学習を進める上で大変参考になるのではないかと思ったことが1つあります。それから「大切のまとめ」というページがありまして、私もちょっと見てみたのですけれども、整った字を書くために筆遣いや文字の配列などの注意点が関連ページと合わせてまとめられていて、気遣いが大変感じられたという点が挙げられます。以上の点から1者目と2者目という形で選ばせていただきました。

平岩教育長

最後に私から、現在、使用しております光村図書出版につきましては、各学校の調査書、また審議委員会の答申におきましても、意見が大変多く出されておまして、高い評価となっております。光村図書出版につきましては、お手本の字が大きくて見やすいこと、また、書くときの姿勢や硬筆と毛筆の持ち方、そして書くときに、どこに気をつけたらよいかを視覚的に、とてもわかりやすく示されているというような意見が学校調査におきましても、多く出されておりますが、この視点はとても大切な視点であると考えておまして、私も学校評価の高い光村図書出版を推させていただきます。

以上で、意見は終わったわけですが、まず、今までのご意見に対し、ご質問・ご意見のある方はいらっしゃいますか。(なし)

いらっしゃらないようですので、各委員が選ばれました状況を申し上げますと、光村図書出版については、次点の大津委員を含めると全員が、そして日本文教出版につきましては1人という状況になっておりますので、全員が選んでおります光村図書出版とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「書写」については「光村図書出版」といたします。

XX

次に、「社会」に移ります。発行業者は3者で、東京書籍、教育出版、日本文教出版となっております。ここは3者でございますので、できるだ

け1者に絞ってのご意見をお願いいたします。

中林委員

学校調査書にもございますように、表現がより適切で、中立的で押しつけが少ないというご意見が大変多くありました教育出版がよいと思います。見開きで目当てがつきやすく、「この時間の問い」「次につなげよう」により、つながりを持たせる工夫も大変よいと思いました。また、3年生の「地域学習」で横浜市、4年生の「地域に学校を開く」という学習の中での羽鳥村と小笠原東陽が取り上げられ、他にも相模水系、箱根、八ヶ岳野外体験教室のある南牧村など、本市の児童にとってなじみのある場所が多く掲載されていて、児童が身近に感じ、より関心を持って学べると思いますし、家庭学習でも活用の範囲が広いこともよいと思います。

大津委員

私も教育出版を選ばせていただきましたけれども、今、意見がありましたように、地元の話であるとか、3年生でも横浜市が多く取り上げられるなど、学ぶ側にとっても教える側にとっても大変身近に感じられ、その土地をイメージしやすい点が挙げられます。また、本文だけでなく「ひろげる」のコーナーが多く配置されていて、さまざまな知識を得ることができるという点も挙げられます。さらに要所、要所に「学びのてびき」があり、具体的な学習手順や方法がわかりやすくなっている点も挙げられます。以上の点から選ばせていただきました。

飯島委員

社会科についてですが、地理では自分たちの住む地域から始めて、県、日本というふうに学んでいきます。また、世界の大陸や海洋についても学びます。小学校で学ぶ歴史は、通史というよりも歴史上の人物の働きを通して、歴史の流れを学ぶというところに特色があると思います。また、現代社会の仕組みや憲法についても学んでいきます。私も皆さんと同じく教育出版を推薦したいと思います。理由は、子どもたちが考えるための工夫があることです。「この時間の問い」「次につなげよう」「学びのてびき」が子どもたちにとってわかりやすく、工夫がされていると思いました。また、学習内容で重要な用語がキーワードとしてしっかり明記されていました。また、章末の「まとめる」に、穴埋め問題が含まれていて、活用しやすいと思いました。

木原委員

3者の社会の教科書は、写真、イラストなど子どもたちが興味を持ちやすいように構成されていると思いました。その中で教育出版は、藤沢市の子どもたちにとって、身近な場所が題材として多く取り入れられ、とても親しみやすく、子どもたちの感性にも働きかけやすいと思います。また、身近なことを通じて自分のこととしてとらえ、考えることを学べるのではないかと思います。

平岩教育長

最後に、私でございますが、まず、各学校の調査書におきましては、現

在使用しております教育出版に対する評価が大変高い状況にございました。また、審議委員会の答申におきましては、3者それぞれを評価する意見がまんべんなく出されたというような状況でございます。そうした中ではございますが、ただいま各委員が発言されたような内容が、各学校の調査書そして審議委員会からも多数出されておりますので、私もそのような視点を大切にしながら、教育出版を推させていただきますと思っております。

ただいま、さまざまご意見がありましたけれども、その意見に対して何かございますか。(なし)

いらっしゃらないようですので、各委員が選ばれました状況を申し上げますと、教育出版を全員が選んでおりますので、教育出版とすることによるしいですか。

(「異議なし」の声あり)

それでは「社会」につきましては、「教育出版」といたします。

×××

平岩教育長 次に、「地図」に移ります。発行業者は2者で東京書籍、帝国書院となります。1者に絞ってご意見をお願いしたいと思います。

中林委員 どちらも工夫がされていると思いますが、私は帝国書院がよいと思います。調査資料や審議委員会での意見にもございますように、視覚的にまた情報が入り過ぎていないので、すっきりとして見やすいと感じました。最初に「地図って何だろう」「地図のやくそく」で丁寧に記号や距離など、地図帳の本来持つべき性質を理解することができてとてもよいと思います。「世界と地球儀」も世界が見渡せてよいですし、「地図マスターへの道」は、児童の個性に合わせて興味のあることに取り組みそうです。本市八ヶ岳野外体験教室のある南牧村市が掲載されていて、体験教室の体験の前や後にも、家庭学習などでも活用できてとてもよいと思います。

飯島委員 地図は社会科の中で使用します。2者を比較しますと、とても見やすく、私の地図帳というイメージに近いものは帝国書院のものでした。したがって、帝国書院を推薦したいと思います。

木原委員 私も帝国書院がよかったと思います。帝国書院の地図帳は、すっきりとしていて見やすく、文字の大きさも大きめで読みやすいと思います。日本地図については、ごく一部のページを除いて、地図以外の写真などは載せておらず、地図帳としてオーソドックスなスタイルで、今後も長く使うことができるものだと思います。

大津委員 私も帝国書院を選ばせていただきました。開けてみると、総体的に見やすくなっている点と、特に随所に配置された「地図マスターへの道」とい

うのがあって、大変興味深く、地図を見ることが楽しくなるような工夫がされていると感じました。また、題材は2者とも似ているけれども、日本の産業や歴史、世界の様子など見やすく、さまざまなデータとあわせて興味深く見ることができるという点も帝国書院の方が見やすいと感じましたので、挙げさせていただきました。

平岩教育長

最後に、私でございますが、地図につきましては、各学校の調査書におきましても、また、審議委員会の答申におきましても、帝国書院を評価する意見の方が多かったと思っております。帝国書院につきましては、学校の調査書におきまして、今、各委員からの発言にもありましたように文字の大きさ、配色などが見やすいとの意見が多く出されていまして、私も色使いがはっきりしていて、立体感があってとても見やすいと感じました。そして都道府県地図として掲載がされていて、「広く見わたす地図」というのが冒頭の方にありますが、その「広く見渡す地図」が、地図学習の導入期には取り組みやすいという意見が学校からも多数寄せられておりまして、私も導入期の3年生から高学年まで楽しく学べる地図帳のように感じましたので、帝国書院を推させていただきますと思います。

今、ご意見をいただきましたけれども、その意見に対しまして、ご質問等ございますか。(なし)

それでは、各委員が選ばれた状況を申し上げます。帝国書院を全員が選んでおりますので、帝国書院とすることによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「地図」については「帝国書院」といたします。

×××

平岩教育長

次に、「算数」に移ります。発行業者は6者で、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版となっております。ご意見を願いたいします。

飯島委員

算数の授業では数量や図形などについての基礎的、基本的な概念や性質について学んでいきます。日常の事象を数理的に処理する技能の習得や筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔明瞭、的確に表現する力を養うことが大切です。今回、算数の教科書すべてに目を通しましたけれども、難易度という観点で言えば各社とも似たり寄ったりで、ほぼ同じと言えらると思います。特に、高学年で学ぶ算数は大変難しいなという印象を受けました。高等学校の数学の教科書は易しいもの、標準的なもの、難しいものまで大変多様です。私が思うに、小学校の教科書ももう少し易しい教科書づくりが可能だと考えますし、そのような教科書があれば推薦したかったのですが、残念ながらありませんでした。そこで東京書籍

の教科書ですが、小学校の1年から5年まで分冊になっていて、低学年での通学に負担が少ないよう配慮されていることや、若干ではありますがけれども、東京書籍は問題のイメージをつかみやすいように挿絵等に工夫が感じられることを考慮し、東京書籍を推薦したいと思います。

中林委員

今、算数の専門家の飯島委員からもお話がありましたとおり、苦手意識を持たないような工夫や重さに対する配慮があるとよいと思います。その点で、東京書籍は1年生の一番最初の本が大変薄くて軽く、ノートも兼ねていて書き込みもしやすく、先ほどのような工夫があり、入門書としては大変よいと思います。また、問題数も適量と先生方の意見も多くあり、答えに至るまでの道筋が幾つもある問題では、粘り強く考えられるようヒントを示しており、自分の考えと比較したり、確かめたりすることができるという点もよいと思います。裏表紙の者からの保護者へのメッセージは、これから生きていく社会に対する会社の子どもたちへの思いがしっかりと私に伝わってきて、とても共感できました。したがって、東京書籍がよいと思います。

木原委員

私も東京書籍がよいと思います。まず、初めて算数を学ぶ1年生の教科書では、動物、植物、物などの小さいキャラクターの個数を黄色いブロックを介して数に結びつけることで、目に見てわかりやすく、それぞれのキャラクターもブロックも皆、丸みをおびて親しみやすいと感じるものとなっています。それほど難しくない例題で繰り返し練習ができる構成で、抵抗感を持ちにくいのではないかと思います。また、6年生の教科書では、「確かめよう」「つないでいこう」「生かしていこう」などのヒントが出されていて、問題に取り組みやすくなっていると思います。

大津委員

算数についても各者ともよくできていて、余り大きな違いは感じられませんでした。そういう中で、私も東京書籍を1つ目に挙げさせていただければと思っています。これは1年生が分冊になっていて、入門となる「算数のとびら」は薄くて、小さな子どもの持ち運びに負担が少なく感じられたことや、イラストなども見やすく、初めての子でも興味が引かれるように工夫されている点が挙げられます。また、高学年の「学びのとびら」では考え方がわかりやすく記されている点や、他の教科書にもあったのですが、ノートづくり方が、より丁寧に示されている点などがとてもよいと思いました。

2つ目として、教育出版になります。1年生では算数に興味を持てるようゲーム感覚を取り入れている点や、6年生では子どもたちが好きなナスカの地上絵のような世界の不思議を題材にしたり、鍵盤を使用した問題など算数を好きになるような要素といったものが取り入れられているなど

感じました。以上、2者になります。

平岩教育長

最後に、私でございますが、算数につきましては、まず、各学校の調査書におきましては、東京書籍の評価が大変高いような状況でございます。また、審議委員会の答申におきましては、東京書籍、次いで教育出版に対するご意見が出されているような状況でございます。算数につきましては、積み重ねがとても大切な教科と考えておりまして、学習したことを理解していくことを確認しながら進めていくことが大切だと思いますし、わかった、できたという経験が次の興味につながっていくと考えますので、飯島委員も先ほど発言されておりましたように、問題数や難易度といったものについてもとても大切だと考えております。そうした視点で教科書を見ますと、各学校の調査書や審議委員会の意見においても、東京書籍については1時間の単位ごとにまとめがある、また、単元ごとに学習の仕上げとして「生かしてみよう」「試してみよう」「つないでいこう」のコーナーで、学習したことを確認できる、さらに図やイラスト等を使いながらわかりやすく説明されている。解説等が適切であり、子どもたち自らが考えることができるなど、使いやすいのではないかとご意見がありますので、東京書籍を推したいと思っております。

以上、ご意見をいただきましたが、今までのご意見につきまして、ご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。(なし)

いらっしやらないようですので、各委員が選ばれた状況を申し上げますと、東京書籍につきましては全員が、そして教育出版につきまして1人という状況になっております。全員が選んでおります東京書籍とすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「算数」につきましては、「東京書籍」にいたします。

×××

平岩教育長

次に、「理科」に移ります。発行業者は6者で、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信濃教育出版社、啓林館となっております。ご意見をお願いいたします。

木原委員

私は大日本図書を選ばせていただきました。例えば3年生の教科書では自然、植物や動物、風や音や光の観察から、種から実って食べる野菜へのつながりなど、身近な生活とつながりを持たせていてわかりやすいと感じました。また、次の学年で学ぶことの予告が最後にわかりやすく書かれていて、子どもたちにとってもわかりやすいと思います。また、水や天体、体、土地など、それぞれに写真を多く取り入れ、特に土地や地層については、横須賀や小田原、江の島など神奈川県内の場所が複数取り上げられて

いて大変親しみやすいと感じました。

中林委員

どの者も大変色もいいですし、写真もたくさん入っていて、理科を楽しめて学習できるような工夫がされていると思いました。その中で私も大日本図書がよいと思います。学校調査書に多く記載されていますとおり、児童が手順を理解しやすく、結果や考察が簡単で、興味が持てるような工夫が大変多くされています。また、本市の湘南台文化センター、江の島や新江ノ島水族館などが掲載されていて、学習がより身近に感じられますし、実験の際の注意につきましては、どうしてなのかという理由も大変わかりやすく記載されていて、とてもよいと感じました。事故防止という点からも家庭学習でもつなげられる内容だと思います。

飯島委員

理科の授業ですけれども、自然の事物、現象について理解すること、また、観察・実験を通してそれらに関する技能を身につけるとともに、問題解決の力を養うことが大切であると考えます。各者を比較をしましたけれども、考えさせるための工夫があり、それほどの違いはないと感じました。ただ、問題解決の流れが明確で、学習の流れが比較的わかりやすいこと、写真や図版が見やすいことなどから、大日本図書を推薦したいと思います。

大津委員

私も1社目は、大日本図書を選ばせていただきました。今、意見が出ていましたように、目次と学び方が同じページに配置されていて、一目でわかるように工夫されている点や、特にサイエンスワールドが随所に配置されていて、読み物風になっていまして、理科に興味を持てるように工夫されている点が大変よかったと思っています。

2社目は、啓林館を選ばせていただきました。ページごとの構成や文字の配列、大きさなど大変見やすい点が挙げられます。また、大日本図書のサイエンスワールドと同様の「理科の広場」というのがございまして、その章の関連項目や、ふとした疑問をわかりやすく取り上げている点が大変よいと思いました。

平岩教育長

最後に私の意見ですが、理科につきましては、各学校の調査書また審議委員会の答申におきましても、現在使用しております大日本図書を評価する意見が大変多い状況となっております。そして大日本図書でございまして、各学校の調査書または審議委員会において、実験や観察などの流れ、手順がわかりやすいとの意見、そして市内の施設や神奈川県資料も数多く取り上げられ、本市の児童が親しみやすいというような意見が多くありまして、藤沢の子どもたちに適していると考えられるというような意見がありました。そういう理由から私も大日本図書を推したいと思っております。

以上で意見についてはよろしいですか。

それでは、各委員が選ばれました状況を申し上げますと、大日本図書が全員、啓林館が1人というような状況となっております。全員が選ばれております大日本図書とすることでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「理科」につきましては、「大日本図書」にいたします。

×××

平岩教育長 次に、「生活」に移ります。発行業者は8者となっております、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信濃教育出版社、光村図書出版、啓林館、日本文教出版となっております。

それでは、ご意見をお願いいたします。

中林委員 各者さまざまな工夫がされていて、とても楽しい1年生の生活が始まるなど感じました。調査資料や審議委員会の意見にもございますが、東京書籍は「かつどうべんりてちょう」、実物大の「ポケットずかん」などがあり、家庭学習でも活用ができて大変よいと思いました。また、昨今、本市においても家庭の形やあり方がさまざま、配慮が必要な家庭も増えてきておりますので、家庭生活に関わる活動については、自分でできることを切り口に行っていることも東京書籍は大変よいと思いました。

木原委員 私も東京書籍がよいと思いました。この教科書では家での暮らし、学校での生活、自分の力や役割を知り、成長していくということが段階的に学べるようになってきていると思います。四季を通じたまちの自然やまちの変化にも着目していて、成長段階に合わせて学べるようになっていてよいと思います。

飯島委員 生活科の授業は小学校1年生、2年生で行われます、3年生以降については理科や社会に分かれていきますけれども、生活科では身近な人々、社会及び自然を自分との関わりでとらえたり、自分自身や自分の生活について考える、生活上必要な習慣や技能を身につけるというようなことで、低学年の子どもたちにとっては身近な題材で非常に大切な教科書であると思います。私はA4判で非常に大きくて写真、図版等がきれいな東京書籍を推薦したいと思います。また、文字も大きいので、子どもたちの興味を引くように工夫されていて、低学年の子どもたちが楽しみながら学べる教科書になっていると思います。よって、東京書籍を推薦したいと思います。

大津委員 私は2者、選ばせていただきまして、1者目は東京書籍となります。これは今まで出ていた意見と同じようなことですが、写真やイラストが大変わかりやすく、親しみを持ちやすいという点、特に面白いと思ったのは、上巻の「たねをまこう」というのがあるのですが、種を蒔いてからつぼみになるまでのページが少しずつ小さくなっていて、前ページと比較するア

アイデアが大変面白いなと思いました。また、審議委員会や先生方の意見も使いやすいという意見が多かったと記憶しています。

2者目は教育出版になります。これも同様にイラストや写真がとても見やすいこと、それから目次を1年間の学ぶ時期と合わせていて、学ぶ側だけでなく、教える側や保護者にも大変わかりやすくつくられているなと思いました。さらに「保護者の皆様へ」というところがあるのですけれども、ここの表記が「生活」で何を学ぶのか、見やすく、わかりやすく示されている点がよかったと思っています。

平岩教育長

最後に、私でございますが、各学校の調査書そして審議委員会の答申におきましても、現在使用しております東京書籍を評価する意見が最も多かったと思っています。次いで多かったのが学校図書というような状況となっております。私も両方の教科書を丹念に見させていただきましたが、学校の調査書に書かれているのですけれども、具体的な活用例とか写真、イラストが使われておりますし、また、吹き出し等でわかりやすくそれが示されているという意見が多くありました。児童が活動のイメージをつかみやすく、活動意欲を高めるといような効果があるという意見も多く見られましたので、東京書籍と学校図書を推したいと思っています。

これで意見はそれぞれ述べていただいたところでございますが、まず、質問等はよろしいですか。(なし)

いらっしゃらないようですので、各委員が選ばれました状況を申し上げますと、東京書籍が全員、学校図書が1人、教育出版が1人というような状況となっております。全員が東京書籍を選んでおりますので、東京書籍とすることでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「生活」については「東京書籍」といたします。

×××

平岩教育長

次に、「音楽」に移ります。発行業者は2者で、教育出版、教育芸術社となっております。できる限り1者に絞ってのご意見をお願いいたします。

飯島委員

音楽の授業ですけれども、音楽に必要な技能の習得、音楽を味わって聴くこと、そして音楽活動の楽しさを通して感性や情操を育むことが大切である教科であります。2者の教科書を比較すると、現在使用している教育芸術社のものは、教材が見開き2ページで完結するつくりになっており、使いやすいこと、また、二次元コード(QRコード)が2者の教科書についているけれども、教育芸術社の方は当該ページについているのに対して、教育出版の方は初めの目次のところについているので、どちらかという、教育芸術社のものが見やすいと感じました。実際、スマホでもってQR

コードを読み込んでみますと、昔懐かしい唱歌の歌声が聴こえてきたりして、家庭で情操教育を育むのに2者の教科書はとても素晴らしいと思いましたが、使い勝手のよさ等を考慮して教育芸術社を推薦したいと思います。

大津委員 私も教育芸術社を選ばせていただきました。音楽は歌うとか、聴くとか演奏するとかというふうになるけれども、楽器を親しむことも音楽を好きになる1つの要素だと思います。教育芸術社の1年生の教科書を見てみますと、トライアングルやタンブリンなどの扱い方が丁寧にわかりやすく載っていて、こういう点から見ても音楽に親しむにはよいかと思います。それから巻末の振り返りのページであるとか、巻頭で何を学ぶのかが示されていたり、巻末の方ではより丁寧にわかりやすく、子どもたちが、音楽が好きになるように工夫されている点が大変よいと思いました。

木原委員 私も教育芸術社がよいと思いました。同じ歌が載っていても挿絵が違ったりと、いろいろな変化は小さいところではありますけれども、音楽のリズムや演奏などの基本的な、基礎的な知識や学習が、この芸術社のものでは教科書を通して教えやすく、また子どもたちにとってもわかりやすくつくられていると感じました。

中林委員 どちらも楽しく学べるような工夫がされていると思います。QRコードなどでも家庭で楽しく歌ったりすることができて、少しうらやましく感じました。県や市の調査資料にもありますが、教育芸術社は表紙を開くと、目次ではなく、1年間の学習を音楽の木という形でほんわかとした絵を示していて、児童が見通しを持って、また、楽しく学習できるような工夫がされています。外国語を取り入れた教材も児童が外国語を楽しく学べると思いますし、審議委員会の意見でも見開きで完結していること、写真の背景にコントラストをつけて、歌詞の判別がしやすいところ、スモールステップで学習が進められるような工夫は、児童には学習しやすくとてもよいと思いました。

平岩教育長 最後に、私から意見を述べさせていただきます。音楽につきましては、各学校の調査書、審議委員会の答申におきましても、教育芸術社を評価する意見が多くなっている状況でございます。教育芸術社につきましては、それぞれの学年の冒頭で、1年間で学ぶことが絵を使って、わかりやすく「学びの地図」として示されていて、子どもたちが見通しを持って学習に取り組める。また、学期末や題材のまとめりに、振り返りのページがございまして、学習したことを確認したり、関連づけたりすることができるような構成となっている。さらに音楽が上達するための気づきを促すためのキャラクターの吹き出しが効果的に使われていて、理解が深まるので

はないかなどの意見が多数寄せられておりまして、私もそのとおりだと思いますので、教育芸術社を推したいと考えております。

今、さまざまご意見を述べていただきましたけれども、今までのご意見に対して何かご質問等はございますか。(なし)

いらっしゃらないようですので、各委員が選ばれました状況を申し上げますと、全員が教育芸術社を選んでおりますので、教育芸術社とすることによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「音楽」につきましては、「教育芸術社」にいたします。

×××

平岩教育長 次に、「図画工作」に移ります。発行業者は2者で、開隆堂、日本文教出版となっております。1者に絞ってのご意見をお願いいたします。

飯島委員 図工ですけれども、図工の時間では造形的な視点について学びます。また、表現を工夫したり、作り出す喜びを味わったりするなど、やはり音楽と同じように、感性や情操を育む学習として大変大切だと思っております。2者の教科書を比較いたしましたけれども、2者とも優劣をつけがたいところがありました。しかし、開隆堂は2次元コード・QRコードがあり、道具の使い方、絵の具の使い方などを動画で見ることができるところがよいと思いました。家庭学習を含めて子どもたちにとって有益な部分があるということで開隆堂を推薦したいと思えます。

中林委員 どちらも大変カラフルで、楽しそうな図工の時間が過ごせそうだと感じましたが、私も開隆堂がよいと思えます。県や市の調査資料や審議委員会でもございましたが、最初に「学習のめあて」で3つのキャラクター、くふうさん、ひらめきさん、こころさんが児童にあちらこちらで語りかけていて、児童はその時、その時で考えながら、そして見通しを持って学習することができると思えます。また、安全、かたづけが共通のマークで示されているところや、全学年に神奈川県事例や作品が取り入れられているので、地域を身近に感じるところもとてもよいと思えます。表紙の題字がすべて違う言葉で示されていて、さまざまな表現方法で工夫されていること、今年はどんなことをやるのだろうと、児童の意欲や感性が広がるような工夫もされていると感じました。

木原委員 私も開隆堂がよいと思えました。どのページからも子どもたちのいきいきとした姿と、子どもたちの作品からつくる喜びや描く楽しさが伝わってきて、子どもたちの興味を引きつける教科書だと感じます。また、どの学年の教科書も「図画工作を学ぶみなさんへ」として、子どもたちへ、「心をひらいているんなものごとを見つめる、広げる、深める」「..それらは

たからものになる」と呼びかけ、作品の鑑賞の項では、低学年では同じ子どもたちの身近な作品が、また、高学年では国内外の優れた作品が選ばれ、芸術的な感性を養う工夫がなされていると思いましたので、開隆堂をお勧めしたいと思います。

大津委員　私もいずれの教科書を見ても楽しくなるようなつくりになっていると思いました。その中で私も開隆堂を選ばせていただきましたけれども、各題材ごとに学習の目当てがわかりやすい言葉遣いで表記されている点や、そのとき使用する材料が明記されている点など、細かな点に工夫が見られること、それからこういうことが苦手な子どもでも、容易に準備がしやすかったり、学習しやすかったりすると考えられる点がいいなと思いました。

平岩教育長　最後に私から図画工作について意見を述べさせていただきます。まず、各学校の調査書におきましては、開隆堂の評価が高い状況となっておりますけれども、審議委員会の答申におきましては、それぞれに対してさまざま評価する意見が出されているというような状況でございます。どちらの者につきましても、全学年に共通するマークを用いていまして、必要な材料や道具を端的に示しているところでございます。しかし、開隆堂の方がどの單元についても、左ページの左上の囲みの中にそれを示しておりますので、子どもたちにとっては、よりわかりやすいのではないかと考えております。また、いずれも単元で育てたい3つの資質能力を「学習の目当て」としてわかりやすく表示している点は共通しておりますが、開隆堂につきましても、めあての表現が「何々をしよう」という児童目線の表現になっている上に、特にその題材で重点を置いている目当てにつきましても、下線を引いたり、色を変えるなどの工夫によって児童がより目当てを意識しやすい、理解しやすい工夫がしてあるというような意見が出されておりました、とても共感いたしましたので、開隆堂を推したいと考えております。

ただいま各委員からさまざまなご意見をいただきましたけれども、今までの意見に対してご質問・ご意見等ありますか。(なし)

いらっしやらないようですので、各委員が選ばれた状況としては、全員が開隆堂を選んでおりますので、開隆堂とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「図画工作」は「開隆堂」にいたします。

XX

平岩教育長　次に、「家庭」に移ります。発行業者は2者で、東京書籍、開隆堂となっております。できる限り1者に絞ってのご意見をお願いいたします。

中林委員　どちらも大変見やすく、わかりやすく学習できる工夫がされていると思います。調査資料や審議委員会での意見にもございますが、調理や裁縫道

具などいろいろな道具が多い教科ですので、サイズは小さい方が、より児童が学習しやすいという意見に賛成しています。その点で開隆堂はサイズも小さく、見つける、気づく、わかる、できる、生かす、深めると、自分が成長していくステップが表紙にわかるように示されていて、児童が家庭科に対するわくわくする気持ちが持てると思います。「チャレンジコーナー」が学期末に設けられていて、長期休みの学習へのつながりもよいと思いました。中学校の「技術・家庭」の学習への見通しと、もっとできるようになりたいという意欲が持てるような工夫もあり、巻末の英語での表現も外国語学習にもつながっています。二次元コードも開隆堂は細かな作業ごとに区切られていて、わかりやすく、また、示されている時間もきちんと画面の下の方に秒数が出ていて、使いやすいと思います。

飯島委員

家庭科ですが、日常生活に必要な知識や技能を習得すること、生活の改善を図ること、家庭の一員として、生活をよりよく工夫しようとする態度を養うこと、そういうような教科でございます。2者ともよくできているなと思いました。しかしながら、教科書を詳細に比較しますと、開隆堂の方がコンパクトにまとめられているなと思いました。調理の手順が1ページに書いてあるので、見やすいこと、それに対して東京書籍は両面にわたっておりまして。また、開隆堂は、章の初めが「なぜ調理をするのだろうか」「なぜぬうのだろうか」「なぜ整理・整頓をするのだろうか」「なぜ毎日食事をするのだろうか」などのように、問題提起から始まっているので、とてもよいと感じました。よって、開隆堂を推薦いたします。

大津委員

私は東京書籍を選ばせていただきまして、今の意見と逆になってしまうのですが、私はサイズが大きい分、文字やイラストが大きく、大変見やすいと思ったところがございます。中身については、各題材ごとに学習の流れが設定されていて、それにとってページが展開されている点や、実践の進め方も丁寧に説明されていて、とてもよかったなと思いました。

木原委員

私は1者に絞り切れずに2者について述べさせていただきます。東京書籍は、初めに「わたしの生活、大発見！」のテーマで、自分のできる仕事を増やしていこうと、子どもたちが自分の役割に目を向けて、責任感を持つことの大切さを初めに伝えていると思います。また、朝食ということに着目して、朝食の大切さについて、1つの項目として取り上げ、子どもたちに伝えようとしている点の特徴があつてよいと感じました。

一方で、開隆堂は「家族の生活再発見」という表現で、改めて自分を含む家族の日常生活に着目している点では同じですが、朝食の大切さとして特別に取り上げてはいませんが、なぜ食べる必要があるのかということについて、「食べて元気に」との項目で取り上げています。したが

って、どちらもそれぞれによいと思いました。

平岩教育長

最後に、私から「家庭」についての意見を述べさせていただきます。各学校の調査書におきましては、現在使用しております開隆堂の方が評価が高い状況でございますが、審議委員会の答申におきましては、それぞれの者をさまざまな視点から評価する意見が出されておきまして、あまり差がないのかなと感じたところでございます。しかし、私自身、開隆堂について見ますと、各学校の調査書において、要点がわかりやすくまとめられている、イラスト、写真が見やすくわかりやすい、特に実習における作業の仕方、手順がわかりやすい。また、情報量が適当である、そして教科書の大きさがコンパクトになっておきまして、余り広くない机の上で作業をするときに、あわせて教科書を置くということでは、コンパクトの方が適しているというような意見も多く寄せられておきました。こうした視点を踏まえますと、開隆堂を推したいと思っております。

ただいま意見をさまざまいただきましたけれども、今までの意見に対してご意見等ありますか。(なし)

いらっしゃらないようですので、各委員が選ばれた状況を申し上げますと、開隆堂が4人、東京書籍が2人という状況になっておりますので、人数の多い開隆堂とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「家庭」については「開隆堂」にいたします。

×××

平岩教育長

次に、「保健」に移ります。発行業者は5者となっております、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいとなっております。意見をお願いいたします。

大津委員

私は光文書院を選ばせていただきました。光文書院の図やイラストが見やすい点や「さらに広げよう、深めよう」のコーナーが、より詳しく解説されている点などで大変わかりやすいと思ったことです。さらに「学習のまとめ」が、設問形式になっているものの関連ページが示されていることで、調べ直しがしやすい点などが挙げられます。もう1つテーマを4コマ漫画で説明している点が面白いなと思ったのが理由でございます。

木原委員

私は学研教育みらいがよいと思いました。学研はイラストや紙面の構成が見やすく、わかりやすいと思いました。3年、4年生では、体の発育や発達について、大人に近づく体の変化を女子は女子の子どもと大人、男子は男子の子どもと大人というふうに、同性同士を横に並べて比較している点がわかりやすいと思いました。また、思春期の変化についても登場人物の経験談の形式で、自然に受けとめやすく紹介しています。また、5～6

年の教科書では「心の健康」について、体と心の関連について丁寧に書かれているという点で「学研」がよいと思いました。

飯島委員

「保健」ですけれども、体育の時間の中で取り扱いがされております。保健では健康な生活、体の発育・発達、心の健康、けがや病気の予防、食事などについて勉強することになっております。私も「学研」を推薦したいと思います。理由は、保健の学習が自分自身の生活とつなげて考えられるように工夫があります。教科書の設問が適切で、分量もよいと感じました。また、学習の流れがわかりやすいと思いました。

中林委員

調査資料や審議委員会での意見にもありますとおり、学研教育みらいは、見開き2ページで1時間分の内容となっており、流れがわかりやすいところ、書き込み部分も簡潔でよいと思いました。学校生活の身近にある熱中症対策には児童が判断する材料を示す工夫もあります。また、喫煙、飲酒、薬物など家庭で保護者が伝えるよりも、実際にこうなるんだとわかるところがよいという審議委員会での保護者の意見もございました。私も同感ですし、いろいろな場面で家庭学習にも役立ててほしいと思います。登場人物に、本市でも導入していますスクールカウンセラーがいて、一緒に考えていけるところ、最初のページに「健康って、どんなこと？」と投げかけているところも、これからいろいろなことを考えていけるんだなということを示していて、とてもよいと思いました。

平岩教育長

最後に、私から「保健」についての意見を述べさせていただきます。各学校の調査書におきましては、学研教育みらいが一番多く、次いで光文書院、東京書籍の順に評価が高いという状況でございます。審議委員会の答申におきましては、学研教育みらいと光文書院への意見が多かったと考えております。光文書院と学研教育みらいでございますが、審議委員会や、各学校の調査書におきまして、1時間で何を学ぶのかが見開きのページにまとめられていて、子どもたちが見通しを持って学ぶことができる。また、写真やイラスト、吹き出しなどが効果的に使われておりまして、とてもわかりやすいというような意見が多くありました。さらに両者ともに単元に関連して、「さらに広げよう・深めよう」や「もっと知りたい・調べたい」というページが随所に設けられております。子どもたちの興味・関心に対応して、理解を深める工夫がなされていると考えておりますので、学研教育みらいと光文書院を推したいと思います。

今、さまざまなご意見をいただきましたけれども、今までのご意見に対しまして、ご質問・ご意見等ございますか。(なし)

各委員が選ばれた状況を申し上げますと、学研教育みらいが4人、光文書院が2人という状況となっておりますので、人数が多い学研教育みらい

とすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「保健」については「学研教育みらい」にいたします。

××××××××××××××××××××××××××××××××××××

平岩教育長 次に、「英語」に移ります。発行業者は7者で、東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版、啓林館となっております。英語につきましては、今回が初めての教科書採択となります。そのことを踏まえまして、ご意見をお願いいたします。

大津委員 「英語」につきましては、初めての教科化ということで、子どもたちが学びやすい、興味を持ちやすいことが大切だというふうに思います。そういう中で、私は2者を上げさせていただきますけれども、1つ目が開隆堂になります。本当にどのテキストもよいと思いますけれども、開隆堂は、最初に「CAN-DO マップ」学びの道しるべが示されている点や、これまで学んだ復習のページがあったり、歌で学んだりといろいろ工夫をされている点が大変よいなと思いました。それから登場人物が設定されていて、ちょっとオーバーですが、物語風に進行していくため、知らないうちに勉強が進んでいくような感じを受けたことが1つの理由になります。

2者目は、教育出版になります。これは目次のページを開けたときにちょっと面白いなと思ひまして、アメリカっぽいなという感じを受けました。そういう意味で英語の教科書らしい感じがしたということでございます。内容的には1年間の学習目標がわかりやすく示されていたり、また、内容も非常にわかりやすく、レッスンごとに「振り返ろう」があり、生徒自身で理解の度合いがわかりやすくなっている点、このことで振り返りや復習等にも利用しやすいのではないかと思いますところでございます。

中林委員 どの者も身近な場面設定で、児童が楽しく学習できるような工夫がされていると思います。特に二次元コードでは学ぶというよりも、楽しく話せるようになれるなというふうに感じました。自分や自分の子どもたち3人とも英語がとても苦手でしたので、こんな教科書でしたら、もっと楽しく学べたのではないかと感じました。書き込みスペースや巻末のカードにつきましては、者によって熱量の違いがあるように感じました。審議委員会の英語を楽しみ、伝え合える喜び、話すことで世界が広がることを実感してほしいという意見にはとても共感しています。そのためにも苦手意識が芽生えないような配慮が必要だと思います。

私の方からは2者を推したいと思います。1者目は三省堂になります。調査書にも中学校で使用している教科書なので連動していてよい、シンプルで見やすい、外国語活動とのつながりがスムーズであるという意見がご

ざいます。実生活での英語を取り上げており、より身近に感じる工夫がされていて、話す活動が多いのもとてもよいと思いました。また、諸外国の内容もバランスよく取り上げられていて、国際理解にもつながり、とてもよいと感じました。

もう1者は、東京書籍です。表紙をめくると、5年生が「日本と暮らす私たち」、6年生では「世界に暮らす私たち」とあり、自分のことから始まり、地域や日本、世界、世界と日本、そして自分の未来というふうにだんだんと広がっていき、自分をイメージしやすく、どんなふうに話していきたいのか、どんなふうに話せるのかなというようなことが想像できるように思えてよいのではないかと思います。また、東京書籍だけにある別冊は、児童の理解に合わせて活用でき、家庭学習やちょっとした時間にも振り返りができてとてもよいと思います。

飯島委員

来年度から本格的に小学校で導入される英語ですけれども、英語活動というのが5年生、6年生で現在行われていますが、それが3年生、4年生に降りていって、5～6年生で初めて英語の教科書を使って、英語の学習が行われます。そのために授業時数が3年生、4年生、5年生、6年生については週1時間45分延びるということで、小学校の子どもたち、あるいは先生方に多くの負担がかかっていくのではないかと心配しております。小学校英語の授業では、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについての学習とともに、英語の背景にある文化について理解するというようになっております。小学校5～6年生で学ぶ英語の教科書ですが、各者を比較して感じたことは、入門期の英語教育としては、こんなに難しいことまで学ぶのか、小学生の学習の負担が相当増えそうだと率直に感じました。このようなわけで、できるだけ易しい教科書はないかと探しましたがけれども、難易度の面でほとんど差はありませんでした。

そこで少し些末なところではありますが、巻末に「絵カード」というものがつけられています。つけられてない者もありましたけれども、その「絵カード」にミシン目があるかないか、50枚とか100枚とかカードがあるわけです。ミシン目がないと、ハサミで1枚、1枚切り取るという作業が必要ですので、学習の効率という面では非常に課題が残るなど考えました。ミシン目がある絵カードが使われている東京書籍、教育出版、啓林館の3者を推薦候補としました。これら3者の中で導入が見開き2ページになっていて、写真も多用しているのは東京書籍でした。また、教育出版は学校で、家でというように、場面ごとの設定がわかりやすく適切と感じました。また、教育出版は子どもたちもよく知っている人物の写真が多く載せられているので、興味、関心を引くことにつながると感じました。

また、小学校の子どもたちにとって書くことは相当抵抗感があります。特に英語の単語を書くということには抵抗感を感じる児童が多いのではないかと考えて、英語を書くという学習が比較的遅く出てくる教科書はないかというふうに比較しましたところ、教育出版の教科書が比較的遅く書くことが始められるという状況でございました。

また、「調査書まとめ」の中にも学校の意見として、聞いて理解すればよい内容であれば、あえて英語を載せないなど、思い切った構成であるというふうに書かれていました。私としましては、先ほどの東京書籍、それから今述べました教育出版の2者を推薦したいと思います。

木原委員

私は第1に東京書籍、第2に光村図書出版を選びたいと思いました。東京書籍の教科書は、聞く、話す、書く、読む、のそれぞれにキャラクターを用いて、学びのポイントをわかりやすく示しながら、自己紹介という親しみやすい場面から、英語学習に取り組めるようにつくられていると思います。用いている写真はどれも生き生きして楽しげで、英語を学びたい気持ちを高めて、世界への関心を深めるのに役立ち、英語初心者に向けて丁寧につくられていると思いました。

また、2番目に光村図書出版は、4つの大切「Smile, Eye contact, Clear Voice, Response」を最初に示して、英語という言葉、もしくは文化の特徴を的確に教えていると思います。この4つの基本がその先の英語によるコミュニケーションには大きな助けになると思います。また、あいさつに始まり、日常の学校生活や家庭での生活の1コマ、1コマを取り上げ、身近な何気ないコミュニケーションを英語で進めることを体験し、垣根や抵抗なく学びが進められるように感じます。これら5年生の学びから引き続き、6年生では日本の紹介や自分の考えや思いを伝える次の段階のコミュニケーションを実践することにつながっていき、よいと思いました。

平岩教育長

最後に、私から「英語」についての意見を述べさせていただきます。英語につきましては、初めての教科化ということもございまして、各学校の調査書、また審議委員会の答申におきましても、各者に意見が分かっているような状況でございます。英語についてでございますが、英語を使うことが楽しい、できた、もっと使いたいという気持ちにさせることが大切です。そのためにそれぞれの者がさまざまな工夫をしていると感じたところでございます。その中でも東京書籍と教育出版につきましては、すべてのユニットがパターン化されているので、児童が取り組みやすく、見通しをもって学習を進められるとの意見がございましたが、この視点はとても大切であると思っているところでございます。また、内容につきましても、自分のことから始まりまして、地域のこと、日本のこと、そして世界

のことにだんだん広がっていくという構成になっておりまして、子どもたちが英語を使うことで、自分の世界が広がっていくことを意識できるようになるのではないかと感じたところでございます。さらに子どもたちの理解を促したり、親しみを感じるようなイラストや写真が多く使われておりまして、とても見やすいので、楽しく授業ができるのではないかと、そのように感じましたので、東京書籍と教育出版を推したいと思っております。

以上、ご意見さまざまいただきましたけれども、今までのご意見に対しまして、ご質問・ご意見等ありますか。(なし)

それでは、各委員が選ばれた状況を申し上げますと、東京書籍が4人、教育出版が3人、開隆堂と光村図書出版、三省堂がそれぞれ1人となっております。一番人数が多い東京書籍とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「英語」については「東京書籍」といたします。

×××

平岩教育長 次に、「道徳」に移ります。発行業者は8者でございます。東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきとなっております。ご意見をお願いいたします。

木原委員 私は光村図書出版を選びました。全体に柔らかい、優しい挿絵や色遣いで構成され、穏やかに素直に学びやすい教科書だと感じます。また、長く親しまれてきた物語などの教材は、子どもたちの心をひきつける力があり、考えよう、話し合おう、つなげよう、といった語りかけをすることによって、子どもたちが素直に考え、また、考えを深め、自分のこととしてとらえやすくなっていると感じました。

飯島委員 「特別な教科 道徳」でございますけれども、自己を見詰め、物事を多面的、多角的に考え、道徳的な判断力や豊かな心情を育てることを目指しております。前回、採択されたときから一部分の改訂はありました。特に市民の皆様から批判のあったものについて教材を削除した者もありましたけれども、ほぼ前の採択の状況と変わらないものでございましたので、私は前回と同様、光村図書出版の教科書を推薦したいと思います。取り上げられている題材が優れていること、考えさせるための発問が適切であり、物事を多面的、多角的に考えるのに役立つと考えるからです。

中林委員 私も光村図書出版がよいと思います。調査書や審議委員会での意見にもございますように、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」など、児童が主体的に取り組み、理解が深められるような工夫が大変多くされていると思います。「演じて考えよう」は、そのときどんな気持ちになったか、自

分の思いと異なる発言するときに、自分で気持ちを体感できることはよいという、審議委員会での保護者の意見がございましたが、それはとても大切な視点だと感じました。演じることが苦手な児童もいると思いますが、他の教科でもそういうような場面がたくさんありますので、その場、その場で、できる形で学習に関われるようなそんな児童になってほしいと思いますし、先生方にはさまざまな工夫をお願いしたいと思っています。2年前に採択しましたが、「きみがいちばんひかるとき」は、とても素敵な言葉だと改めて感じました。

大津委員

私は2者を選ばせていただきまして、東京書籍と光村図書になります。東京書籍は、目次の後に1年間で学ぶことがわかりやすくまとめられていること、また、新しく道徳を学ぶ児童や保護者にとって、何を学ぶのかがはっきり示されていることは大変重要であると思います。そういう意味で東京書籍は大変わかりやすいと思いました。また、イラストも可愛らしいものが多く使われていまして、初めて学ぶ子どもたちも楽しく学べるのではないかと。さらに低学年で扱いやすいサイズと重さであることなども挙げられるというふうに思います。

2者目は光村図書になります。東京書籍同様、扱いやすいサイズであることやイラストがふんだんに使われていて興味を持ちやすいこと、また、題材ごとに「考えよう・話し合おう」のコーナーがあり、何を学ぶのか、生徒だけでなく先生にもわかりやすいのではないかとこのように感じたところでございます。

平岩教育長

最後に、私から「道徳」についての意見を申し上げます。各学校の調査書におきましても、また、審議委員会の答申におきましても、光村図書出版を評価する意見がとて多いような状況となっております。光村図書出版につきましては、学校から各教材ごとに設けられております「考えよう・話し合おう」のコーナーの発問が工夫されていて、子どもたちが考えやすく、何について話し合うのかがわかりやすいものになっている。また、ロールプレイやコラムなどが充実している、さらに全学年に設けられている「なんだろう なんだろう」のコーナーは、子どもたちに親しみやすく、物事を多面的にとらえられる内容になっている等々、多くの意見がありまして、とても共感できますので、光村図書出版を推したいと思っております。

「道徳」についてもさまざまご意見をいただきましたけれども、今までのご意見に対しまして、ご質問等ございますか。(なし)

それでは、各委員が選ばれた状況でございますが、光村図書出版が全員、東京書籍が1人となっておりますので、全員が選んでおります光村図書出

版とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、「道徳」につきましては、光村図書出版にいたします。

×××

平岩教育長

これで 13 種目すべての教科用図書について決定いたしました。

議案第 19 号「令和 2 年度使用小学校用教科用図書の採択について」は、ただいま決定いたしましたように、繰り返しますと、「国語」は「光村図書出版」、「書写」は「光村図書出版」、「社会」は「教育出版」、「地図」は「帝国書院」、「算数」は「東京書籍」、「理科」は「大日本図書」、「生活」は「東京書籍」、「音楽」は「教育芸術社」、「図画工作」は「開隆堂」、「家庭」は「開隆堂」、「保健」は「学研教育みらい」、「英語」は「東京書籍」、「道徳」は「光村図書出版」を採択することよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

平岩教育長

それでは、議案第 19 号「令和 2 年度使用小学校用教科用図書の採択について」は、ただいま申し上げました 13 種目の教科用図書を採択することといたします。

会議の途中ですが、ここで約 10 分間の休憩を取りたいと思います。

傍聴の方につきましては、会場を出る際は傍聴券を携帯してくださいますようお願いいたします。再入場の際に傍聴券を確認させていただきます。

それでは、3 時 50 分まで休憩といたします。

午後 3 時 39 分 休憩

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後 3 時 50 分 再開

平岩教育長

会議を再開いたします。

それでは、議案第 20 号「令和 2 年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について」を上程いたします。事務局の説明を求めます。

窪島教育指導課長

それでは、議案第 20 号「令和 2 年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について」を説明いたします。(議案書参照)

提案理由の欄にもありますように、この議案を提出いたしましたのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行例第 15 条第 1 項の規定により、中学校用教科用図書については令和元年度に採択替えをする必要があるためです。「特別の教科 道徳」を除く中学校用教科用図書については、前回は、平成 27 年度に採択替えを行っておりますので、今年度が採択替えの年になっております。しかし、令和 3 年度から新しい学習指導要領が実施される予定であることに伴い、令和 2 年度から使用す

る中学校用教科用図書については、新たに検定を経た教科書がございました。したがって、平成 26 年度検定合格図書等の中から採択を行うこととなります。教科書の内容については、平成 26 年度検定合格図書の時点から現在のもとの基本的には変わりはありません。そのため、調査研究資料については、文部科学省から過去 4 年間の使用の実績を踏まえつつ、平成 27 年度採択における調査研究の内容等を活用すること、神奈川県教育委員会からは「中学校用教科用図書の結果（平成 28・29・30・31 年度用）」をもって充てること示されました。

このことを受け、「特別の教科 道徳」を除く中学校用教科用図書につきましては、平成 27 年度に神奈川県や藤沢市が作成した中学校用教科書の調査研究資料等を参考にし、採択いただきます。なお、中学校用教科用図書については、第 3 回藤沢市教科用図書採択審議委員会において審議が行われ、教育長に対して平成 28 年度から令和元年度まで使用している中学校用教科用図書について、「新学習指導要領の移行期間であり、全面実施に向けて現在の教科書を使って計画的に準備を進めている状況であること」や、「あと 1 年間だけの使用であること」などから、現在使用している教科用図書を引き続き使用すると考える内容が答申されております。

6 ページの「別紙 1」をご覧ください。「特別の教科 道徳」を除く「令和 2 年度使用中学校用教科用図書発行業者別一覧表」がございます。なお、今年度使用している「特別の教科 道徳」以外の中学校用教科用図書の一覧を 7 ページに参考資料として記載してございます。

8 ページをご覧ください。「特別の教科 道徳」につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行例第 15 条第 1 項の規定により、平成 30 年度採択と同一のものを採択することとなっております。別紙 2 は、平成 30 年度採択の中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書でございます。

それでは、議案書を読み上げます。（議案書朗読）

平岩教育長

事務局の説明が終わりました。まず、「特別の教科 道徳」を除く中学校用教科用図書の採択替えについて、協議をしております。

事務局の説明にもありましたとおり、本市の教科用図書採択審議委員会からは、新しく採択替えをする必要はないと考え、現在使用している教科用図書を引き続き使用することと考える旨の答申を受けております。

それでは、ご意見をお願いいたします。

中林委員

審議委員会を傍聴させていただきましたが、さまざまなご意見が多数出ているように思います。改めてどのような意見が出されたのか、確認させ

ていただけますでしょうか。

近藤教育指導課指導主事 藤沢市教科用図書採択審議委員会における中学校用教科用図書の審議で出された意見についてでございますが、第2回審議委員会の際に、第3回審議委員会までに、中学校長の審議委員をお二人に、「現在使用している教科用図書のについて各中学校の使用実績を確認いただき、その現状を踏まえた上で審議を進めたい」という意見が出されました。それを受けて、中学校長の審議委員が、校長会を通して中学校での使用実績について確認をいただきました。

第3回審議委員会にて報告された各中学校での使用実績については、「教科書によっては使いづらさはあるものの、必要なことを資料等で補うなどの工夫をしながら、全体としては現行の学習指導要領の示す目標に向かって指導ができています」ということでした。

また、「平成30年度からは、令和3年度に全面実施となる新学習指導要領への移行期間であるため、現在の教科書を用いて計画を立て、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に取り組んでいる」ということでした。「そのため、来年度は現在使用している教科書を用いて新学習指導要領への移行に備えながら、全面改定となる新しい教科用図書の研究と採択に時間をかけて、丁寧に取り組むことが適当である」という意見がございました。

次に、今年度同じ状況にある小学校について、小学校長の審議委員から意見が出されました。「昨年度、小学校用教科用図書については、平成26年度使用の教科用図書を引き続き採択することが教育委員会において決定されました。そのことにより、児童や教員にとっての負担が軽減された」とのことです。また、「同じ教科書を継続して使用していることで児童が見通しを持って授業に臨むことができ、教師も4年間の教材研究の積み重ねを生かした深い学びを児童に保障できているということから、中学校用教科書についても、来年度は、新学習指導要領に則った新しい教科用図書の研究と採択に時間をかける方がよいのではないか」という意見がございました。

中林委員 大変わかりやすくまとめてくださってありがとうございます。審議委員会での意見を改めて今、確認させていただきまして、生徒や教員の方の負担軽減を考えますと、現在、使用している教科書を採択することがよいと私は考えます。

飯島委員 私も審議委員会を傍聴させていただきました。ただいま事務局から説明がありましたように、審議委員会では中学校選出の委員から、各中学校の使用実績を校長会等を通してご確認いただいたところ、来年度は、現在使

用している教科書を引き続き使用し、新学習指導要領への移行に備えての研究に取り組みたいという意見がございました。また、小学校選出の委員からも、昨年度、小学校の教科書の採択替えに際し、引き続き同じ教科書を使うことが決まりましたので、子どもたちや教員の負担が軽減されたとの意見が出されたところでございます。私は答申で述べられている理由は、学校現場としてもっともなことであると考えますので、新しく採択替えをする必要はないと考えます。

また、来年度につきましては、新しい学習指導要領に即した教科書ができ上がりますので、改めて全教科、全種目について検討し、それぞれ1者ずつの教科書を採択したいと考えております。

平岩教育長

他にご意見はございますか。(なし)

ただいま中林委員、飯島委員から現在使用している教科書と同一の教科書を採択したいとの考え方が示されました。「特別の教科 道徳」以外の中学校用教科用図書については、同一のものを採択するというご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

続きまして、令和2年度使用中学校用特別の教科 道徳」につきましては、事務局の説明にありましており、法令により平成30年度と同一のものを採択することになっております。このことについて、原案どおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議がないようですので、議案第20号「令和2年度使用藤沢市立中学校用教科書の採択について」でございますが、「特別の教科 道徳」を除く教科用図書については、平成27年度に採択したものと同一のものを採択することとし、「特別の教科 道徳」については、平成30年度採択と同一のものを採択することに決定することといたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

平岩教育長

次に、議案第21号「令和2年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について」を上程いたします。事務局の説明を求めます。

窪島教育指導課長

それでは、議案第21号「令和2年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について」を説明いたします。令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書については、教科書目録に記載されている教科書及び学校教育法附則第9条の規定による一般図書の中から採択することになっております。

この後、ご協議いただきますが、採択に当たり見本の他に、調査研究をするのに参考としていただいた資料を確認させていただきます。まず、文部科学省の「学習指導要領」、そして神奈川県教育委員会から示された「令和2年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」でございます。

次に、市独自の資料ですが、2点ございます。1点目は、「令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書」です。これは特別支援学級設置校長や特別支援学校長が、自校の教員に調査研究させたものでございます。2つ目は、「令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書まとめ」です。これは今回、新たに教科書として希望のありました新規図書と複数種目で希望のありました図書の内容、また、児童生徒の特性を踏まえた選定理由等についてまとめたものでございます。さらに、資料ではございませんが、教科用図書採択審議委員会からの答申についてもご覧いただいております。

それでは、提案理由等を説明いたします。（議案書参照）

この議案を提出いたしましたのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行例第15条第1項並びに学校教育法附則第9条第1項の規定により、採択する必要によるものです。学校教育法附則第9条の規定による一般図書につきましては、「文部科学省初等中等教育局教科書課長通知」を参考にして、児童生徒の障がいの種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容であることや、体系的に編集されていること、他教科の図書等との関連性も考慮すること、高額なものに偏ることがないようにすること、さらに採択した図書が完全に給付される見込みであることなどに留意して審議することとしております。

採択する教科用図書につきましては、令和2年度使用藤沢市教科用図書の採択方針に基づき、採択日程に沿って特別支援学校長及び特別支援学級設置校長による調査研究、審議委員の委嘱又は任命、教育長による審議委員長への諮問を経て、第3回藤沢市教科用図書採択審議委員会におきまして審議が行われました。その結果、「昨年度まで採択されている一般図書は、引き続き使用できること」、「新規図書や複数種目で希望のある一般図書は、いずれも適切であること」と考える内容が答申されております。

11ページ以降27ページまでに記載している「令和2年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書」は、藤沢市で昨年度採択された一般図書及び今年度新たに希望が上がった一

般図書を一覧にしたものです。「新」と書かれたものは、藤沢市立学校において今回新たに希望が出されたもので、「□」印の書かれた図書は、複数の種目で希望が出されたものでございます。また、無印のものについては、昨年度本市で採択をされているものでございます。

なお、27 ページにございますように、点字教科書や拡大教科書も学校教育法附則第9条の規定による一般図書として給付の対象となります。また、本市の小・中学校で採択されている検定済み教科書並びに星印本と呼ばれる特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科書も給付の対象となり、これらの教科書の中から無償給付の対象となる特別支援学校における小・中学部及び小・中学校の特別支援学級の児童生徒1人に対して種目ごとに適した教科用図書1冊が給付されます。

また、高等部においては無償給付の対象外となりますが、学校教育法附則第9条の規定による一般図書及び教科書目録に登載されている教科書を使用することになります。

それでは、議案書を読み上げます。(議案書朗読)

平岩教育長

事務局の説明が終わりました。

それでは、これから協議をしてまいります。まず、本市で昨年度までに教科用図書として採択されてきた図書については、引き続き使用していくことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、昨年度までに採択されている図書につきましては、引き続き使用することとし、議案書11ページ以降にあります今回新たに希望が上がった図書と複数の種目で希望が上がった図書について、協議をしてまいります。

協議の方法について私から提案させていただきます。11ページのNo.1「国語・書写」から26ページのNo.10「道徳」まで、一括して協議をしていくことでいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、ご意見をお願いいたします。

木原委員

私は見本本のすべてに目を通しました。また、採択審議委員会の委員の先生方の丁寧な審議やご発言も聞かせていただき、また、調査書等の資料も読み、それぞれの図書の特徴やねらいがさまざま、皆、優れた図書であると感じました。特別支援学校や学級の先生方は、一人ひとりの子どもの能力や個性や発達段階、伸びる可能性を念頭に図書を選び、学習を進めていかれると思います。その際に、その子どもに合った教材が、その子どもの成長に欠かせないと思っております。例えば国語や書写の中で例を挙

げますと、それらの教科用図書には思いやる心を育むのに役立つ図書や、例えば「おととあそぼうシリーズ7 ドン！ドコ！ドン！たいこ」のように音のリズムが心地よく、音を通して学べる教材も含まれており、子どもの特性に合わせて用いることができ、また、「しりとりしましょ！たべものあいうえお」などは、しりとり遊びで食べ物と日本語「あいうえお」に、自然に触れる、また、視覚的にもとても楽しく学べるものだと感じました。また、算数や数学の九九のカードは、カードとしてのよさがあり、手に取って、目で見たり、音読したり、いろいろな学び方ができますし、「生活・地図・社会」の「絵でわかるこどものせいかつずかん」などは、説明が短く、わかりやすく、子どもの不安を取り除きやすい。また、同様に「五味太郎・言葉図鑑」などは、言葉の裏にある気持ちや気分など、難しいことをわかりやすく表現していて、目に見えない感情や気持ちを汲み取ることを学べる優れた図書だと感じました。

また、これらの新たに、あるいは複数の種目で希望があった図書については、子どもの特性や発達段階に合わせて用いることにより、その子どもの成長や発達に必要な学びを深めるため、選びながら使うことができる優れた特徴を持った図書であると思います。私はすべて採択してよいと思いました。

大津委員

昨年も同様の意見を述べさせていただきましたけれども、特別支援学校や小中学校の特別支援学級に通う児童生徒については、障がいの内容や程度、発達段階が人それぞれ異なるということです。同学年であっても発達段階が異なることもあり、図書についてもその特性に合わせたものを使用することが望ましいと考えられます。このようなことから、音の出る図書や色や形に工夫が凝らされたもの、触れることで発達や理解を促すもの、文字やアルファベットに興味を持てるよう工夫されたものなど、さまざまな図書が必要と考えます。そして何より学ぶ子どもたちが興味を持って使用できる図書がふさわしく、今回、新たに選ばれている図書、複数の種目で希望のあった図書を含めさまざまな視点で選ばれていて、子どもたちが興味を持って利用できると考えられます。以上のようなことから、今回、提出されている図書については、ふさわしいものと考えております。

平岩教育長

他にご意見はございますか。(なし)

ないようですので、ただいま木原委員、大津委員から特別支援関係の教科用図書につきましては、一人ひとりの発達段階に合わせて教科書を選んでいくが大切であるため、新規種目と複数種目での希望図書を含めたすべての図書を教科書として採択したいとの考え方が示されました。この考え方に基つきまして、新規図書と複数種目での希望図書を含めたすべての図

書を教科書として採択することとしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、ご異議がないようですので、議案第 21 号「令和 2 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について」は、発行業者による供給が困難となった図書を除きまして、「令和 2 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書にあります、すべての図書を教科書として採択いたします。

以上をもちまして、本日、すべての審議を終了いたしましたので、閉会といたします。

長時間にわたりまして、ありがとうございました。

午後 4 時 20 分 閉会